

証券市場新聞

日経平均株価

1万5967円17銭

▼229円63銭 (前日比)

TOPIX

1291.82

▼19.38 (前日比)

2016

2/22

月曜日

Marketpress.jp

発行元 ココ・パートナーズ株式会社

〒542-0081 大阪市中央区南船場3-7-27 NLC心斎橋ビル6F

TEL 06-6105-1904 FAX 06-7635-78

厚株主優待銘柄に照準

年初からの暴落で底値圏

3月相場の突入とともに、期末を睨んだ動きが本格化する。特にこの時期は第3四半期の内容を踏まえた通期業績の動向に加えて配当や株主優待を意識した銘柄選別が重要視される。年明けからの全般相場の大幅下落により、手厚い優待を行う銘柄が底値圏で買えることは魅力。中長期保有のみならず、数カ月保有の短期でも投資妙味が高そうだ。

小額でも魅力ある投資

2月12日に日経一円割れまで売り叩かれたことで、配当と優待目的だけでなく魅力的な銘柄が多数安値圏に到来している。配当に関する足元の業績動向で変動する可能性があるが、優待について

株主優待、企業からのプレゼント何を選ぶ



は、自社商品の贈呈など安定的に行う企業が多いことから優待内容が魅力的なものであれば、現在の株価位置は絶好の投資機会になる。因みに投資金額が10万円以下では健康コーポレーション(2928)が保有株式にに応じてカタログから自社製品を選べる優待制度を設けており、3月末と9月末の権利確定時に100株以上2000株未満で4000円相当を贈呈。首都圏中心に「天狗」ブランドで居酒屋を展開

するテンアライド(8207)も3月末と9月末で100株以上500株未満の場合に、5000円の無料飲食券が2枚贈呈。ボウリングのラウンドワン(4680)は1000株以

上500株未満の場合に3月末と9月末で5000円割引券4枚、クラブカード引換券2枚、健康ボウリング教室優待券1枚が贈呈される。この他、投資金額が10万円以上なら「すき家」を展開するゼンショーホールディングス(7550)や「松屋」を展開する松屋フーズ(9887)などの食事券も魅力的な存在だ。

日経平均日足チャート



山崎パン急落

ナビスコブランドライセンス契約終了で収益懸念

引終了後、子会社ヤマザキ・ナビスコが米モンデリーズ・インターナショナルとのライセンス契約を8月末で終了すると発表したことを受け、グループ収益へ



山崎パンの日足チャート

今週の動意銘柄

中村超硬S高

の影響を警戒した売りがかさんだ。ヤマザキ・ナビスコは米モンデリーズ社と技術、商標ライセンス契約を結び、「ナビスコ」、「ナビスコ・トライアングル・マーク」のビスケットブランドと「オレオ」、「リッツ」などクラッカー4ブランド製品を製造販売してきた。

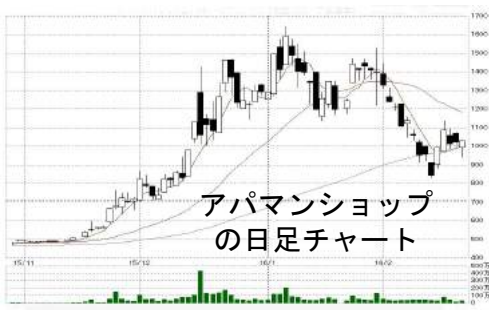
15日、中村超硬(6166)がストップ高。前週末取引終了後、2016年3月期の業績を修正利益予想を大幅に引き上げたことで買い気が強まった。連結業績について、売上高は66億74

00万円に対して67億円(前期比30.8%増)とほぼ従来予想通りながら、営業利益を9億6400万円から14億1000万円(同72.1%増)、へ引き上げるなど、利益予想を大幅増額。ダイモンドワイヤの販売拡大と高付加価値化、生産性向上で利益が大きく上ぶれる。

民泊関連軒並み高

15日、アパマンショップホールディングス(8889)がストップ高をつけたほか、AMBITION(3300)、インベスターズクラウド(1435)、ネクスト(2120)、スターツコーポレーション(8850)など民泊関連が軒並み買われた。各メディアが東京

都大田区が宿泊旅行サイト会社「とまれ」に全国初の認定書を交付したと4月の民泊条例施行を目指す大阪府が審査基準案を公表したことを伝えたことを受け、関連銘柄に買い気再燃した。消費法への対応や税制の問題など、参入障壁はあるものの、外国人観光客急増に伴



アパマンショップの日足チャート

う宿泊施設不足の解消に民泊の普及は欠かせず、改めて今後の事業拡大へ期待が高まった。

デジタル地図サービス参入

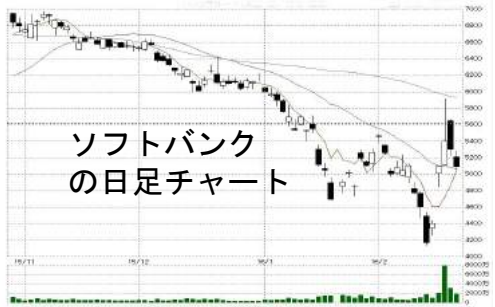
ネクストウェアS高

16日、ネクストウェア(4814)が急伸、前日比50円高の183円ストップ

16日、アクロディアS高(23)がストップ高。セキュリティ関連事業を行うネクスト・リットとセキュリティーの販売に関する業務提携契約を締結。最大30社の異なるウェアスキャナーエンジンを駆使したマルウェアを検出する「Metascan」など製品販売・サポート・マーケティングを共同で行う。

これまででは画像データとしてのデジタル地図配信が主流で、業務目的に応じた地図の変更や加工を行うことに対してはあまり適していなかったが、新たに展開するデジタル地図システムでは、容易な変更、保存再利用が可能となるという。

高まで買い進まれた。15日大引け後にデジタル地図サービス事業に進出することを発表しており、これに対する期待が高まった。翌17日もストップ高を付けた。子会社のネクストウェア(4814)を通じて、オークニー(横浜市西区)からデジタル地図システムの基盤となる事業を譲り受ける。ケーブルテレビ事業者を対象にサービスを開始し、今後、通信、電力や交通などのインフラ企業向けや設備装置産業、IoT分野へと拡大していく方針。



16日、ソフトバンクグループ(9984)がストップ高となる前日比700円高の5100円まで買い進まれた。15日取引終了後に自社株取得枠の設定を発表、発行済み株式数の14・2%にあたる1億6700万株、取得総額5000億円が上限で需給改善効果が大きく、買い気が盛り上がった。取得期間は16日から来年2月15日まで。

ソフトバンクS高 発行株の14%上回る自社株買い

同社が実施する自社株買いとしては、過去最大規模だが、資金は保有資産の売却資金と手元資金を充当。直近12カ月間(15年3~16年2月)に、同社と子会社が保有資産売却や配当金などにより得た資金は合計で約3000億円になる。

ヒューマンウェブS安

今期営業赤字に修正

16日、ヒューマンウェブ(3224)が3月期の営業赤字に修正、売上高を従来予想の46億6500万円から40億円(前期比3・9%増)、営業損益を1億円の黒字から2億9800万円の赤字(前期2億1100万円の黒字)へ下方修正したことを嫌気

アンジエスMGはアトピー 性皮膚炎治療薬試験完了

17日、アンジエスMG(4563)がストップ高。同社は16日、自社開発品で核酸医薬であるNFKBデコイオリゴDNAを用いたアトピー性皮膚炎治療薬(軟膏製剤)について、国内で実施中の第3相臨床試験に観察期間(投与後に

症状の変化を観察する期間)が終了し、試験が実質的に完了したことを発表した。今後は各症例のデータを回収し、解析を実施。良好な結果が得られた場合には、国内で中等症以上の顔面のアトピー性皮膚炎に適応症として今年中に承認申請を行う予定。

門外不出・大伸流底値先回り買投資成功法試見(損の少ない新安値買が基本なり)
マイナス金利暴落はリーマンショック暴落時と同様絶好の買場なり(2月17日)

相場格言の中の半値八掛け2割引き断固買に合致する銘柄あり断固買

- (8303) 新生BK 高値291円→暴落中一段安断固買なり
- (5406) 神戸製鋼 高値240円→暴落中一段安断固買なり
- (7013) IHI 高値637円→暴落中一段安断固買なり
- (6479) ミネベア 高値2358円→暴落中一段安断固買なり
- (6513) オリジン 高値558円→暴落中一段安断固買なり
- (6997) ケミコン 高値417円→暴落中一段安断固買なり

実績資料送付後底値大幅高予想のお試し銘柄書面にてお知らせします(返信切手1000円要)

株は決勝点のないマラソン・田舎の名医が目標の

大伸経済研究社

電話058-243-5690(午前8:30~11:00)
〒501-3144 岐阜市芥見大般若2-25-2

インターネットからの資料請求はこちら⇒

(実績40年) 金融商品取引業者 登録番号 東海財務局長(金商)第45号(一般社団法人)日本投資顧問業協会会員
会費1ヶ月50万2ヶ月80万円(継続同額)(税込)
1年後の成果に自信あり(少数会員制)
将来の運用成果を約束するものではありませんが(銘柄相談自由)(入会勧誘致しません)

<https://ssl.form-mailer.jp/fms/6676f562377872>

公表銘柄は一例であり全てではありません
目標値は当社独自の分析による予想値です
有価証券の運用には、価格変動リスク、株式発行者の信用リスク、流動性リスクがあります。運用の結果、元本を割り込み、損失を被ることがあります。リスクに関して詳しくは契約締結前の書面をご覧ください。



マイネット 4日連続S高 で上場来高値 業績急拡大手がかりに

17日、マイネット(3928)はこの日で4日連続ストップ高に買われ、上場来高値を更新した。10日引け後に発表した今12月期単独業績も、前期に続いて売り上げ、利益急増を予想したことをきっかけに大きく人気化。昨年12月上場

の直近IPOで需給圧迫が少なく、値動きの軽さが短期資金を呼び込み、4日間で株価は2倍以上に上昇した。スマートフォン向けゲームのセカンダリー市場拡大を背景にタイトルを大きく増やしており、今期は売上高60億円(前期比2.0倍)、営業利益3億円(同2.1倍)を見込む。

17日、三菱重工がMRJ納入で合意(7011)が3日続伸。三菱航空機が米国の航空機リース会社「エアロリース社」とMRJ90を20機、2018年の納入開始へ向けて基本合意したと発表した。三菱航空機にとって航空機リース会社との初の基本合意

石油関連軒並み反落

減産合意に至らず失望売り

17日、国際石油開発帝石(1605)、石油資源開発(1662)、JXホールディングス(5020)をはじめ、石油関連株が軒並み反落。石油輸出国機構(OPEC)加盟のサウジアラビアとベネズエラ、カタール、主要産油国のロシアによる協議は減産合意に至らず、原油先物が反落に転じたこと

16日のニューヨーク原油先物WTIは期近の3月物は前週末比0.40ドル安の1バレル29.04ドルで取引を終え、17日の東京商品取引所でも原油先物が大幅反落でスタート。産油国による協調減産の実現は難しく、相場低迷が長引くとの見方が広がった。

三菱重工が続伸

18日、横河電機(6841)が続落、前日比39円安の102円まで売り込まれ、4日ぶりに昨年来安値を更新した。同日取引終了後、英KBC社を友好的に買収すると発表。

横河電4日ぶり安値

英石油関連コンサル 買収も資金負担警戒

石油・ガス産業向けコンサルティングとソフトウェアを扱うKBCをグループに取り込むことで、石油関連プラント関連事業でワンストップ・ソリューションを提供、制御機器の

DWTIがS高

角膜疾患治療薬開発で 同志社大学と共同研究

同志社大学と角膜疾患治療薬の研究開発を目的とした共同研究契約を結んだと発表したことが買い手がかりになった。今後、日本革新創薬が提供する新薬候補化合物について、同志社大が持つ病態モデル細胞を使って薬効評価などを実施、臨床試験に進められる開発品を選定する。また、同志社大が出願中の特許について、日本革新創薬が実施許諾を受け、治療薬の研究開発を進めていくとしている。

鉄建が続騰

東北・上越新幹線大規模改修で波及期待

18日、鉄建(1815)が続騰、前日比32円高の267円まで買い進まれた。JR東日本(9020)が17日大引け後に東北新幹線(東京・盛岡間)及び上越新幹線(大宮・新潟間)について新幹線鉄道大規模改修引当金積立計画の提出を行ったことを発表しており、これに絡んで鉄道向けの新設工事を主力とする同社へも波及効果が期待されている。JR東日本が主要顧客であることから受注を獲得する可能性は高そうだ。

ト一カロ (3433)

表面改質技術で躍進 今3月期は増収増益

利益48億6600万円(同6.5%増)達成へ向け順調に推移している。

米国子会社設立

ト一カロ(3433)は溶射技術を中心とする表面改質技術の世界的リーディングカンパニー。耐摩耗、耐熱、腐食防止などあらゆる部品の耐久性向上、製品品質向上に同社の技術は必要不可欠で、鉄鋼などの基幹産業から航空・宇宙などの最先端分野まで幅広い分野で重要視されている。

15年11月に米国子会社「TOCALO USA」をカリフォルニア州に設立、これにより半導体・液晶製造装置部品の表面改質加工事業において、有力なエンドユーザーを有する米国でのサービス体制を強化していく。現地当局からの事業認可を受け16年内に事業を開始する予定で海外展開も注目されよう。

溶射加工は半導体・液晶向けが拡大、PVD処理加工は日本コーティングセンター明石工場の開設が寄与しており、今2016年3月期は第3四半期累計(15年4~12月)で売上高218億300万円(前年同期比14.6%増)、営業利益41億3800万円(同24.2%増)と2ケタ増収増益を達成、

通期予想の売上高275億円(前期比5.5%増)、営業

特選銘柄



ト一カロの日足チャート



日本アイエスケイの日足チャート

週末19日、日本アイ・エス・ケイ(7986)が続騰、一時ストップ高の300円まで上げ幅を広げた。耐火金庫と歯科機器中堅で、マインスイス金利導入に伴う金庫需要増加への思惑をハヤし、短期筋が値幅取り人気を盛り上げた。

金庫株が人気化

マイナスイス金利で需要増へ思惑

週末19日、日本アイ・エス・ケイ(7986)が続騰、一時ストップ高の300円まで上げ幅を広げた。耐火金庫と歯科機器中堅で、マインスイス金利導入に伴う金庫需要増加への思惑をハヤし、短期筋が値幅取り人気を盛り上げた。

スマートバユと日本エンタS高

19日、スマートバユ(9417)と日本エンタープライズ(4829)がストップ高となった。前日、両社はM2M/IoTソリューションサービスなどで資本業務提携すると発表したが買手がかりになった。

日写真、値下りトップ

CB発行で希薄化と需給悪化警戒

19日、日本写真印刷(79)が急落、東証1部下落率トップで約15%の値下りとなった。前日終値を207.03円、満期で、転換価格は2011年12月31日発行済株式総数に対する潜在比率は21.1%となる。調達資金はA/Rの1割、借入金返済に充てる。M&A関連資金に充てる。

今週の動意銘柄

今週の

活躍期待銘柄



クラリオン日足チャート

と早期期待が高まることだ。(と)

り、自動走行の試験を行って、おける走行実証を高速道路にせて高精度地図から得られる地物情報を組み合わせて、自動走行の試験を行って、おける走行実証を高速道路に

今期営業49%の大幅増益

クラリオン (6796)

自動走行早期実用化へ

クラリオン(6796)は300円台前半で下げ渋る動き。時価は昨年8月25日に付けた274円以来の安値圏であり、中期視野で見直し余地が大きい。

主力のカーエレクトロニクス分野は米州やアジアでのOEM向けの拡大が継続、原価低減などへの取り組みも寄与し、今2016年3月期は通期連結営業利益で110億円(前期比48・9%増)と大幅な増益を見込む。

日立オートモティブシステムズと連携して茨城県ひたちなか市の常陸那珂有料道路で、自動走行システムの走行実証試験を実施。走行車両の周囲360度を検知するセンサーフュージョンと高精度地図から得られる地物情報を組み合わせて、自動走行の試験を行って、おける走行実証を高速道路に



アエリアの日足チャート

円が目標。(先)

する3分の1戻すまでの下げに對

来安値571円

日につけた上場

来高値から12

は大きく、昨年

リバウンド余地

軽さも魅力だ。

るなど値動きの

0円まで買われ

2月には339

理も進展。昨年

たる長期の調整で需給整

3分の1戻しでも1500円

アエリア (3758)

今期大幅増収で黒字浮上

アエリア(3758)が本格反騰に向かってきた。既存のタイトルの改良と新コンテンツ開発、電子出版・販売のポータルサイトやデータセンター運営でITサービスを拡大、今2016年12月期は連結売上高60億円(前期比43・3%増)、営業利益3億円(前期6億1200万円の赤字)、純利益2億円(同7億7800万円の赤字)と大幅増収で営業は5期ぶり、最終4期ぶりの黒字浮上を見込む。期末一括配当12円(前期10円)への増配を予定。

ファンダメンタルズ急好転に加え、7カ月にわたる長期の調整で需給整理も進展。昨年2月には3390円まで買われるなど値動きの軽さも魅力だ。リバウンド余地は大きく、昨年は高値から12%の戻しにつけた上場来安値571円。日につけた上場来高値から12%の戻しでも1500円が目標。(先)

高野恭壽の株式情報 **これでどや!!**



株式市場新聞の名物コーナーが復活!

高野恭壽(たかのやすひさ)氏 1949年生まれ、大阪府出身。株式市場新聞大阪支社長、株式市場新聞社大阪本社代表を経て株式評論家として独立。講演会のほか、ラジオ大阪「タカさんの新鮮・株情報」をはじめTV、ラジオに多数出演。「株式投資30カ条」など著書も執筆。

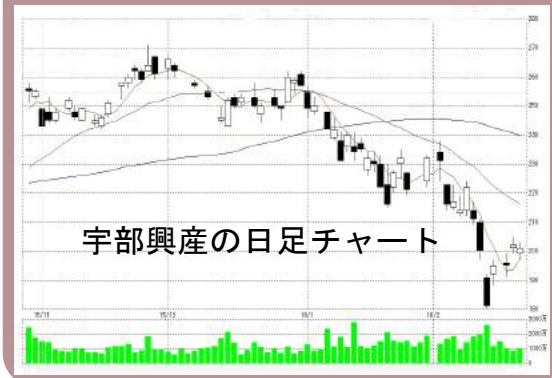
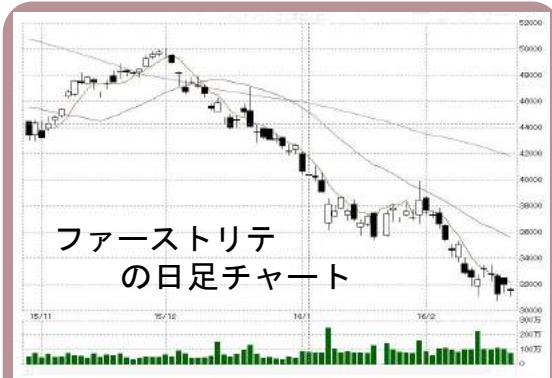
17日は原油価格の増産競争に歯止めがかかったにも関わらず、イランの同調が不透明なことから一斉に資源系が下げに転じて

金融系、ゼネコン、不動産などの先駆け系はもみ合い、あるいは小幅調整となつていきました。そのほか、中小

相が生産維持の合意に同調する意向を示したことで、18日にはさすが資源系が急反発に転じたほか、動きが鈍かった日立製作所(6501)、三菱電機(6503)なども買われて日経平均は戻しました。

目先1万6600円に挑戦

ファーストリテは底入れ期待



き場面が高値になり、引けでは上げ幅を縮小して引けた銘柄が多くみられました。しかも、3日間の揉み合いで、なかなか上値を抜けないという銘柄も目立っていました。先週の下げがあり、1万6000円台まで戻せば、再び反落するのではないかと、という警戒感が強くなり、下げる前に売っておこうという投資家心理がどうしても払拭できずに、この近辺でもたついているようです。

同様のことは円相場でもいえるように、型系のゲーム関連や好業績銘柄なども物色されていました。日経平均は360円高となったものの、寄り付き場面が高値になり、引けでは上げ幅を縮小して引けた銘柄が多くみられました。しかも、3日間の揉み合いで、なかなか上値を抜けないという銘柄も目立っていました。先週の下げがあり、1万6000円台まで戻せば、再び反落するのではないかと、という警戒感が強くなり、下げる前に売っておこうという投資家心理がどうしても払拭できずに、この近辺でもたついているようです。

はほぼ底入れとみられる動きになり、仕掛ける作戦も悪くありません。低位では宇部興産(4208)、ソフトバンク(9984)の5300円割れ水準は見直し余地があるでしょう。

型系のゲーム関連や好業績銘柄なども物色されていました。日経平均は360円高となったものの、寄り付き場面が高値になり、引けでは上げ幅を縮小して引けた銘柄が多くみられました。しかも、3日間の揉み合いで、なかなか上値を抜けないという銘柄も目立っていました。先週の下げがあり、1万6000円台まで戻せば、再び反落するのではないかと、という警戒感が強くなり、下げる前に売っておこうという投資家心理がどうしても払拭できずに、この近辺でもたついているようです。

高野恭壽公式ホームページ
高野恭壽の株式市情報
これでどや!!
<http://www.kabun-takano.com/>
毎日情報を配信中!

国内外でヒットタイトル相次ぐ

銘柄探究



記者の目で企業実態を解析



決算期	売上高	営業利益	純利益
13/3	33,644	4,770	3,290
14/3	31,027	3,602	2,333
15/3	30,313	3,996	2,437
16/3	32,500	6,800	4,600

株 価 展 望

安値圏の時価は見直し場面

株価は11月27日に6200円の後に、今年1月12日に4900円まで調整。

その後は5910円まで1月28日に戻したが、2月5日4350円まで調整している。

時価は8月25日に付けた3910円以来の安値であり、好実態から見直し場面といえる。

通期は上方修正を期待

東映アニメーション(4816)は数々の人気アニメ制作をテコに業績は好調に推移、海外でも同社が手掛けるタイトルへの人気は高く、中長期的にも高成長が期待される。地合い悪で調整した時価は見直し機運が高まりそうだ。

15・5%増)、営業利益60億5000万円(同2倍)、純利益40億5400万円(同2倍)と大幅な増収増益を達成した。

東映アニメ (4816)

海外向けゲームも寄与

1月29日に発表した第3四半期累計(2015年4月~12月)決算は、連結売上高261億4400万円(前年同期比15・5%増)、営業利益60億5000万円(同2倍)、純利益40億5400万円(同2倍)と大幅な増収増益を達成した。

劇場アニメ部門では、昨年3月に「映画プリキュアオールスターズ 春のカーニバル」、4月に「ドラゴンボールZ 復活のF」、10月に「映画Go!プリンセスプリキュア」、11月に「デジモンアドベンチャー tri.」を公開。これらタイトルがヒットしたことでテレビアニメ部門での放映本数減をカバーし、増収に寄与している。

通期については別表の通り売上高で前期比7・2%増、営業利益で70・2%増、純利益で88・7%増の従来

予想を変えていないが、利益については進捗状況から上方修正期待が高まりそうだ。

海外部門では、「ワンピース」や「ドラゴンボール」シリーズなど、複数作品の中国向け大口映像配信権の販売が寄与。

これに加えて中国向けで「ワンピース」のゲーム化権や「聖闘士星矢」シリーズのアプリゲーム化権の販売、欧米向けでは家庭用ゲーム「ドラゴンボールゼノバース」が好調に推移している。

商品販売事業でも「ショップ事業」の拡大や「ドラゴンボール」シリーズの関連商品の販売が堅調に推移している。テレビアニメ部門では「ドラゴンボール超」が人気を維持しており、これに連動して関連商品の販売増が続きそうだ。

同社制作タイトルは国内外で高い人気を誇っており、業績は安定した拡大が続きそうだ。

星野三太郎の株街往来

～株主優待～

株主優待で重宝

するのが牛井チェーンの食事券。昼休みに急いで食事をすれば、値ごろ的にもハンバーガーか牛丼、セルフのうどんに限られるが、最近ではハンバーガー店が閉店で近所から消えてしまつて、牛丼しか選択の余地がなくなつてしまつた。3月までに残り数枚を使

いきつて次の優待を楽しみに待つことになるが、一旦売却した優待銘柄も、今回の暴落でかなり安い株価になつていた。配当利回りを考えてもバグンセールだと感じたが、このように配当と優待狙いだけでもかなり魅力的な株価位置にある銘柄がかなり増えたと思う。

チャートの位置や需給、外部環境など企業の株価を判断するうえで様々な判断材料があるが、100%正確に教えてくれるものは存在しない。投資家が割安に感じたときが、その銘柄の買い時になる。

優待とは少し性格が異なるが、最近ではふるさと納税で、その自治体に納税した人に対する贈答品が異常に豪華なことが話題になつてきている。その贈答品を貰うために縁もない自治体に納税する人も多いが、本来は居住地や実家のある自治体に納税して、暮らしやすい街作りに活用して貰うのが本筋。上場企業の優待はこれと比較できないが、歴史的割安な位置と感じたら、その企業を応援する意味で投資して、そのお礼的感覚で優待を貰うのはアリだ

と思う。



New product

カサカサくちびる直塗りOK!

フェリシモ

うるおいカラーリップトリートメント



トリートメントリップ

反応で発色する処方、くちびるのうるおいをうばいにくく、透明感のある自然な色に発色。水分量が高いほど濃い色に発色するため、日々違う色を楽しむことができる。

さらりとした着け心地で自然に発色。保湿成分としてホホバオイル・スクワラン・アルガンオイルを配合したことで、使う度にうるおいを実感でき「口紅は乾燥しやすいし、グロスにはベタベタして苦手…」とリップメイクに悩む人におすすめとしている。新発売を記念、初回お試しキャンペーンも行っている。

フェリシモ(3396)は「うるおい重ねてわたし色ほんのり色づくトリートメントリップ」のウェブ販売をスタートした。水分

積水ハウス

特別優秀賞2年連続受賞

環境コミュニケーション大賞

企業レター

積水ハウス(1928)の環境・CSRに関する活動の報告書「Sustainability Report(サステナビリティレポート)2015」が、環境省などが主催する第19回環境コミュニケーション大賞の環境報告書部門で「審査委員会特別優秀賞」を受賞した。賞は「G4ガイドラインや統合報告フレームワークなどを参考に新しい報告書の作成、あるいは、統合思考や長期ビジョンといった新たな情報発信に取り組んでいる報告書のうち、優れた

報告書を顕彰するもの。特別優秀賞は2年連続、優秀賞は3年連続の受賞となる。サステナビリティレポート2015は、GRIガイドラインG4の特定標準開示項目の46側面から30の重要な側面を絞り込み、具体的なCSR活動レベルで束ねた六つの「CSV戦略」を開示。財務資本の提供者向けに「統合報告パート」のページを設けている。さらに、WEB版では約240項目にわたる豊富な情報量で、冊子版よりも詳しく取り組みを紹介。環境・CSR活動に取り組み続けることで、持続可能な社会構築を目指すとしている。

週末の開示情報

★ミスミグループ本社(9962)の1月の月次売上高は前年同月比10.4%増の200億8400万円と2ケタ増となった。VONA事業が18.9%増と大きく伸びたほか、FA、金型事業も前年実績を上回った。4～1月累計では前年同期比14.0%増の1980億7500万円。

★杉本商事(9932)は18円としていた今2016年3月期末配当を28円へ引き上げた。年間配当は45円と前期の33円から12円の増配になる。

★gumi(3903)はベンチャーキャピタルファンドのVR FUND, L.P.へ出資、子会社のgumi Americaが同ファンドのジェネラルパートナーに共同事業者として参画する。VR(仮想現実)、AR(A拡張現実)市場でグループの将来の収益機会を確保することが目的で、主に米国の優良企業へ出資する。

★新報国製鉄(5542)は2016年12月期の連結業績を発表、売上高58億円(前期比21.4%増)、営業利益9億円(同56.3%増)と大幅増収増益を見込んだ。液晶パネル製造装置や半導体製造装置向けに主力の低熱膨張合金が大幅に伸び、業績拡大を牽引する。前期に続いての大幅増収増益となり、第2四半期末、期末を合わせた年間配当を20円(前期10円)へ大幅に増配する。

★クリーク・アンド・リバー社(4763)は東京証券取引所の承認を受け、26日に東証ジャスダック(スタンダード)市場から第二部へ市場変更する。併せて2016年2月期の連結業績予想を下方修正した。

来週のスケジュール

- ・23日 米1月中古住宅販売件数
米2月CB消費者信頼感指数
- ・24日 米1月新築住宅販売件数
- ・26日 1月消費者物価指数8:30
G20財務省・中央銀行総裁会議(～27日、上海)

先物の状況

2月第3週の先物市場は年初からの波乱相場から落ち着きを取り戻す動きとなった。225先物の第1限月である3月限では2月12日に1万4800円まで売られたが、その後は1万6000円台まで戻した。この水準は1月末の日銀によるマイナス金利発表前の安値である1月22日の1万5780円を超える水準。

3月限のプットについては最下限の権利行使価格1万5000円が2月12日に55円まで上昇したが、225指数の上昇とともに10円を割れるまで下落した。22日を含めて3月第2週のメジャーS&Qまで実質14日間の立ち合い日数となる。今後、大きな波乱がなければ時間的価値の減少とともに価格がさらに下落することが予想される。

事務所から自宅に持ち帰った観賞用のゴムの木が、年始早々に芽を吹いた。屋外に出していたところ、昨年までの暖冬で成長が早まったのだらう。ところが、年明け以降気温が急低下、芽は黄ばみ始め、慌てて室内に入れたが、茶色く壊死してしまった。昨年12月に立ち上げた弊紙と重ね合わせ、ゴムの木の成長を楽しみにしていただけに残念でならなかった。

ただ、春はもう近い。壊死した芽の横からまた新しい芽が育ち始めた。東京市場も当面の底値を確認し、戻りを試そうとしている。

続いてプット1万5000円狙う

す展開を期待したい。プシヨンの225オ

編集後記

【ご注意】証券市場新聞は投資の参考になる情報提供を目的としており、投資の勧誘をするものではありません。記事には業績や株価、出来事について今後の見通しを記述したものが含まれていますが、それらはあくまで予想であり、内容の正確性、信頼性、予測的確性を保障するものではありません。当紙が掲載している情報に基づく投資で被りたいかなる損害について、当社と情報提供者は一切の責任を負いません。投資についての決定はすべてご自身の判断、責任でお願いいたします。